

本校では、新校舎の平成二十四年春の完成・供用を目指した改築工事を目前に、一号館、二号館そして図書館棟もあと僅かで取り壊される運命にある。古いものはいずれ新しく生まれ変わり発展させなければならぬが、古いがゆえにその歴史が醸し出す風趣が感じられたりするものである。今回は、旧棟との惜別の思いをかみ締めながら、松井天山が描いた「鳥瞰図」を通して、すっかり遠くなってしまった昭和初期の街並みを振り返ってみよう。

「千葉市街鳥瞰」(昭和二年発行)をはじ

学校図書館館長 高橋春樹

松井天山「鳥瞰図」展

四月九日から三十日まで

(資料提供・成田山仏教図書館)

閲覧室で企画展・Ⅲを開催 Closing Event [Bird's Eye View]

2010 年 4 月 8 日
第 84 号
成田高等学校
図書委員会
成田市成田 27 番地

図書館だより



多い地区を選んで展示する。

松井天山について詳しいことは判明していないが、仙台や東京に居住し、一九三一年からは船橋町、葛飾町、松戸町と県内を転居し、一九四六年に市川市の友人宅に寄寓中、列車にはねられて亡くなってしまったという。残念だが天山について書かれた著作物は皆無に等しい。筑波大学(発表時は千葉大学)の中西僚太郎先生が、千葉地理学会誌「房総研究」第三七集(2000 年発行)に詳しく解説されたものが唯一で

め、昭和の初期に県下の市町村を上空から鳥の目で見たかのように俯瞰して描いた絵地図である。これらの絵地図は、概ね白黒で石版刷と思われ、市町村の名称をタイトルとした商工案内図的性質のものである。しかし、成田だけは色刷りで豪華な仕上げとなつており、タイトルは「成田山新勝寺鳥瞰図」とある。発行が昭和十三年であり、ちょうど成田山が開基一千年祭の御開帳を行った年であり、商工案内図というより、成田山を訪れる参詣客向けの観光案内図として制作されたことが伺える。これらの地図は、鳥瞰図絵師の松井天山・本名哲太郎(一八六九年~一九四七年)によって描かれたもので、合計三十枚におよぶが、今回の展示はその中から成田、千葉、四街道、佐倉、佐原、八街等本校に通学する生徒の

あります。

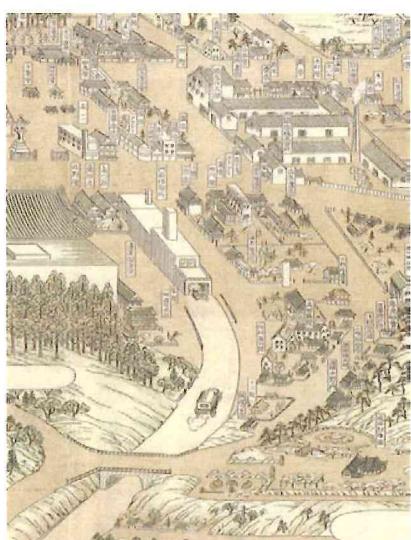
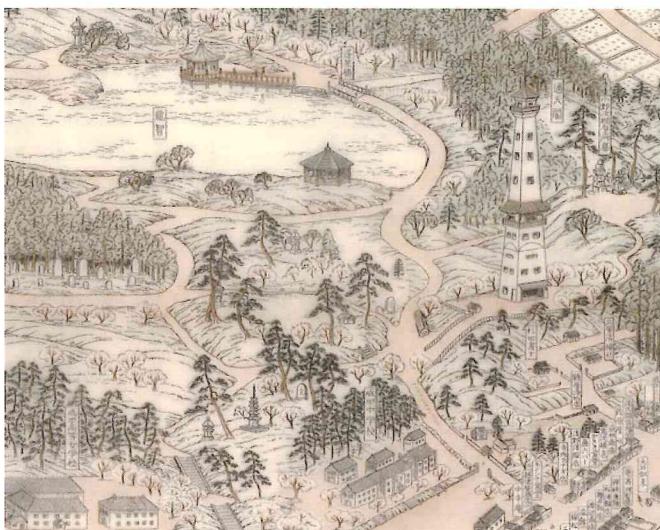
「千葉県成田山新勝寺鳥瞰図」

松井天山によつて描かれた県下の地図は三十点あるが、いづれも昭和初期（昭和二十三年）の街並みである。まだ明治・大正のたゞまいを残す鳥瞰図には、鉄道・駅・道路・主な官公署・学校・病院・工場・商店などを細かく表示し、白黒で刷られた、概ね「商工案内図」として描かれている。しかし、「成田山新勝寺鳥瞰図」が描かれたのは昭和十三年、時あたかも成田山開基一千零年祭を記念した各種の行事が執り行われた年であり、他の地図とは明らかに趣きを変え、色刷りを採用し觀光案内図として制作されている。

図の上部左に、成田山中興第十八世荒木照定ご山主のご尊象、右下には「成田山開基一千年祭を敬迎して」と題した成田山御縁起の大略が、御本尊の敬刻から高尾山奉安までと、御本尊の御遷座までが細かく記されている。中央下には「成田町附近交通圖」が表示され省線（現在の JR）、社線（現在の京成電鉄）が書き込まれ、既に觀光案内図のスタイルとなつており興味深い。

成田山内は「デフォルメされ図の中央に御本殿が鎮座する。これは現在の御本堂西側に移築された拝迎堂である。フランス庭園の北の高台には新更会館（青年学校）が描かれ、現在ではここに平和の大塔が建つていている。龍智之池（三の池）北の薬草園は、現在の成田山書道美術館付近であろうか。特に興味深いのは、成田中学校（現・成田高校）の北側には昭和五年に建造された展

吾までの「成宗電車」（今からちょうど百年前）の明治四年開通で千葉県初の電車、昭和一九年廃業）が走り、チンチン電車の愛称で町民に親しまれたが、その後廃線となつた。このうちの一車輌は函館の路面電車として現在も活躍している。国内ほぼ全ての建造物・商店には名称が付され、境内地の諸堂巡りや成田山の庭園散策にと、参詣客におおいに利用されたであろうことが伺える。現在の街並みや商店街と比較対照するのに好都合である。



この図では可愛い車を描いているが、実際にはこの当時ここには軌道が敷設されており、全線複線の成宗電車が走っていた。中央下が旧制成田中学校。その左に描かれていたのが成田高等女学校である。

母校の図書館の思い出

成田市長 小泉一成（高校27回）

「図書館だより」第八四号に私の高校時代の思い出につきまして、寄稿させていただきます。

成田高等学校は、明治三十一年に創立されまして、一〇〇年を超える歴史と伝統を誇る学校であり、「文武両道」の校是のもと勉学はもとより、文化、スポーツの分野においても輝かしい実績を残されております。改めまして、教育文化事業に熱心に取り組まれてきた成田山新勝寺をはじめ、教職員の皆様、そしてPTAと同窓会の皆様の長年にわたるご尽力に対しまして、深く敬意を表する次第であります。

私も、御校の卒業生でありますし、在学中は応援団とインタークラブに所属し、人生の中で最も感受性が豊かで、心身ともに大きく成長するといわれる青春時代を、素晴らしい先生方や仲間に恵まれ、多くの皆さんと深い絆で結ばれ、ふれあうことができましたことは、現在の私にとりまして本当に大きな財産となつております。母校

には青春の思い出がたくさん詰まっています。

私が現在、成田市政の舵取り役という、

本当にやりがいのある重責を担わせていただいていることも、その志を抱ぐに至った原点は、高校時代にあると思っております。私は、山登りが好きであった担任の高原先生の影響もあって、学校の図書館で新田次郎作の「孤高の人」という小説を読んでいたことを、今でもよく覚えています。

主人公が、その強烈な意志と個性により、



自力で道を切り開いていく生きざまに、強く心を動かされたものでした。

次代を担う若い在校生の皆さんには、これから進んでいかれる様々なかたで、多くの試練と困難が待ち構えていると思います。どのような厳しい現実にぶつかろうとも、高い志を持って、しっかりと将来を見据え、精進と研鑽を積み重ね、何事にも前向きに取り組んでいかれますことを期待申し上げます。

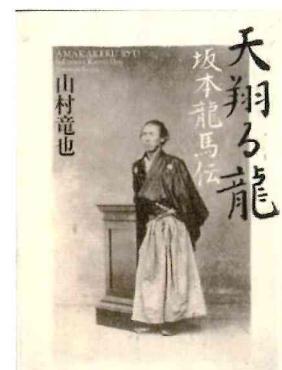
「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」

これは、幕末の思想家である吉田松陰が残した言葉であります。私は、在校生の皆さんにこの言葉を贈り、皆さんが自分の夢に向かって、しっかりと道を切り開いていかれますことを、心よりお祈りいたします。

結びに、成田高等学校の益々のご発展と教職員をはじめ関係者の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。



▼特集・坂本龍馬▲



今号では、図書委員会・広報班による寄稿テーマを、「坂本龍馬」とした。激動の幕末を生きた龍馬を通してこの時代を理解しようとの試みである。

幕末の風雲児・坂本龍馬三十三年の生涯を描いた、NHK 大河ドラマ「龍馬伝」公式サイトから三月放映分までのあらすじを辿ってみよう。

町人郷士坂本家の末っ子として生まれた龍馬は、病弱な母・幸に甘えることもできず、姉・乙女から武術を学んだ。

土佐藩には武士の中にも厳しい階級制度があり、龍馬たちは屈辱的な差別を受けていた。ある日、龍馬の不注意がもとで事件がおき、その結果、龍馬は最愛の母を失ってしまう。母の遺言を胸に刻み、たくましく成長する。

溝潤広之丞とともに江戸にでた龍馬は、千葉道場で師範・千葉定吉、重太郎、佐那

のもと剣を学び始める。その頃、黒船来航という日本を揺るがす大事件が起こる。

黒船を間近で見た龍馬は、剣術修行に疑問を抱く。吉田松陰、桂小五郎らとの出会い、岩崎弥太郎の投獄事件、武市半平太との友情と決別、初恋の女性加尾との別れ、父・八平の死など、人生の難難を乗り越えながら龍馬は成長していく。

幕府が朝廷を無視して日米修好通商条約を結ぶと、幕府の政策に不満を持つ者たちは尊攘夷の狼煙をあげる。

土佐でも武市が土佐勤王党を結成し、改革

をするすめる土佐藩の巨魁・参政吉田東洋に戦いを挑む。一方、岩崎弥太郎は吉田東洋によって藩の役人に抜擢される。土佐藩は尊攘派と改革派に分裂、対決の色を濃くしていく。龍馬は、そのどちらにも与せずに、己の生きる道を切り開くために脱藩を決意する。武市は吉田東洋を暗殺し、土佐藩を動かし始める。



龍馬の少年期

2年E組 飯田 韶

坂本龍馬は、天保六年（一八三五）十一月十五日に高知城下に生まれたとされています。しかし、誕生日には諸説あり、明確ではありません。父の直足は郷士であり、龍馬は兄権平に続く二男として生まれました。

土佐の郷士とは、戦国時代の領主・長宗我部氏の遺臣の末裔で、山内家が土佐藩主として入封した後、土地開墾の義務を持つ在郷の下級武士のことです。

龍馬の名前の由来は、出産前に母・幸が龍の吐いた炎が胎内に入るのを、父が金に輝く馬が懷に入る夢をそれぞれ見たから、また、雲龍奔馬が体内に入る夢を見たから等、複数の説があるようです。また、猫好きであった母が、いつも猫を抱いて寝ていたため獸の気が憑いて、龍馬の背中には一塊の毛が生えていたという話もありますが、いずれも龍馬を伝説化するための後世の創作と思われます。

少年時代の龍馬は才氣がなく気弱で、可愛い末っ子だっただけに、父母の心配は尽きませんでした。十二歳のとき、楠山塾に入りますが、勉強についていけず、成績も良くなかつたようです。よくいじめられて泣き帰ることもありました。この年に母・

幸が亡くなり、そのショックもあってか、学友と拔刀に及ぶ大喧嘩を起こし退塾しました。しかし、その後は姉・乙女が亡くなつた母代わりとなり、叱咤しながら龍馬を見守ります。後に龍馬は妻・お龍に「姉の世話を成長したので、親よりも姉の恩太い」と語ったそうです。

やがて龍馬は十四歳の時、自宅近くの道場に通い始めます。そこで武術を学んだ龍馬は剣士として頭角を現しました。



坂本龍馬の恋人たち

3年A組 笹島 俊樹

坂本龍馬は、一生涯で三人の女性と恋をしましたと云われていますが、この三人はどの人も気が強かったとされています。その理由は、龍馬の姉の乙女が龍馬の理想の女性像だったからだとされています。

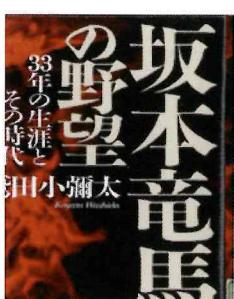
乙女は、当時の坂本家の三女として生まれ、身長約百七十五cmで体重約百十二kgとかなりの大女であり、性格は男勝りでその

上とてつもない怪力の持ち主だったとされています。幼いときに母親を亡くしていた龍馬は乙女によく懐き、いつしか理想の女性像は強い姉のような人になっていたようです。

初恋の人である平井加尾は、龍馬の三つ年下でお互いの住まいが近く、龍馬の姉の乙女らと琴の稽古で同門だったこともあります。龍馬が土佐藩を脱藩する際に男装させて連れて行こうとしたという記録がある程度で、男性的な魅力があったとされています。

二人目は、龍馬が剣術修行をする際に千葉道場で出会った千葉佐那という女性です。十代で小太刀の免許皆伝となり、龍馬も剣では勝つことが出来ないという相当強い女性で「千葉の鬼小町」と呼ばれた程でした。

三人目は、妻となつたお龍という女性です。勝気な美人で身軽で破天荒。そんなお龍を龍馬は「まことにおもしろき女」と伝えています。二人は西郷吉之助の立会いで式を挙げました。以後龍馬は、鹿児島や長崎、下関と彼女を連れ歩くようになります。行動と共にしています。



江戸での剣術修行

2年C組 椎名 桂太

坂本龍馬は、十九歳になると、より高みを目指したいと考え、日本中から剣豪が集まる江戸へ剣術修行に旅立ちました。そこで龍馬は北辰一刀流・千葉定吉の道場に入門しました。

龍馬は十九歳になると、より高みを目指したいと考え、日本中から剣豪が集まる江戸へ剣術修行に旅立ちました。そこで龍馬は北辰一刀流・千葉定吉の道場に入門しました。しかし、定吉は鳥取藩に召抱えられることになり、龍馬は定吉の息子である千葉重太郎の弟子として、この道場で修業に励みました。また、重太郎は龍馬にとって兄のようなくしてあり、その後も長く親交が続く間柄となりました。

その後、土佐へと帰国しましたが、龍馬は二十二歳の時に再び、坂本家と縁戚関係にあった武市半平太とともに江戸へ剣術を学びに行きました。ここでは、武市のために、岡田以蔵、鳥村衛吉などの多くの友人と共に楽しい合宿生活のような日々を過ごしました。

また、龍馬は二十四歳の時に、千葉定吉より「北辰一刀流長刀兵法目録」を与えられました。千葉重太郎にも龍馬の実力は認

められ、千葉本家の道場・玄武館にも籍を置いていたと記録に残っています。

坂本龍馬が暗殺される二ヶ月程前の慶応三年（一八六七）九月、土佐藩が龍馬の構想に従つて大政奉還建白の準備をすすめていた頃、龍馬は長崎にいました。大坂の港に行く途中、まず妻のお龍に会いに下関に寄港します。お龍とは一日しか一緒にいられず、「今度はいつ会えますか。」とお龍は寂しそうに尋ねます。「すぐ帰つてくるよ。」龍馬はそう答えましたが、それがお龍との最期の別れになりました。

次に高知の実家に行き、兄の権平や姉の乙女と再会しました。そして家にも長くはおれず、また二日後には大坂に向け出航します。

坂本龍馬の最期

2年一組 海江田 航



そして夢の総仕上げにとりかかる矢先、志の異なる者達によって龍馬は三十三歳でこの世を去りましたが、この夢は二十一世纪にも受け継がれ、さらに龍馬ファンは増え続けるでしょう。

『坂本龍馬』をテーマに、広報班員四名が、龍馬の少年期から暗殺による最後までを分担、寄稿した。攘夷派と開国派それぞれが、朝廷や幕府そして各藩の思惑に翻弄されながら、それぞれの理想に向かって激突した動乱の時代“幕末”。倒幕により維新を迎え、倒幕派をリードした若き志士たちが、後に明治政府の要人となつていった。日本史上稀な形での変革のまつただ中を、志なかばで天逝した龍馬。彼が今世を見てどう思うのであろうか。

高橋記

● 編集後記

中・高ともに第一学年では貸出が多いが、進級とともに減少してしまった。しかし、ここ数年貸出冊数が増えているが、「朝の読書タイム」用に帶出されると更に増加が期待できる。

また、始業前三〇分の自習・予習に閲覧室を利用する生徒も微増中である。なかが三〇分されど三〇分、年間を通して一〇〇時間になる。是非これを推奨していきたい。

平成 19 年度	一、〇一七冊
平成 20 年度	三、四〇〇冊
平成 21 年度	三、九一二冊

図書貸出統計